

# NEWS LETTER KUMAMOTO

2017.Spring Vol. 112

■発行：一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783

e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/



## 熊本地震を振り返って

今まで聞いたことのない凄まじい地鳴りの音と共に経験したことのない激しい揺れが襲い、普段の生活が一変した熊本地震から早1年が経ちました。

平成28年4月14日(木)21時26分、熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、益城町で最大震度7(熊本市は震度6弱)の地震。当時熊本市国際交流会館は、1団体が利用中でした。利用者の安否確認、会館設備等の点検を行い、会館周辺は停電することもなく午後10時に一旦閉館しました。

その後、日付が変わった4月15日(金)午前1時、熊本市の要請で、一時避難所(外国人避難対応施設)を開設しました。すぐに、韓国人3人と日本人1人の計4名が避難し、余震はかなりの頻度でおりましたが、午後には避難者も全て退出され、午後10時で避難所を閉鎖しました。

余震が続く中の4月16日(土)午前1時25分、今度は熊本地方を震源にマグニチュード7.3、益城町・西原村で最大震度7(熊本市は震度6強)の激しい揺れが襲いました。

午前4時に熊本市の要請で再度避難所として開設し夜が明けて朝になると多くの市民の方々や、外国人旅行者・在熊外国人などが避難されてきました。

国際交流会館は当初指定避難所ではなかったため、熊本市からの救援物資の配給がなく、食料や毛布など物資が不足しました。そのような中、外国人の人権・生活支援

を行っているコムスタカ～外国人と共に生きる会～に炊き出しの協力を4月30日の避難所閉鎖までご協力をいただき温かい食事を提供できました。



### 災害多言語支援センターの立ち上げと避難所巡回

4月20日(水)からは多文化共生マナージャー全国協議会、九州ブロックの地域国際化協会に応援をいただき、災害多言語支援センターを立ち上げ、国際交流会館外の外国人被害者の安否確認と多言語情報の発信をスタートしました。

初期の段階では避難所も大変混乱しており、電話での外国人避難状況確認がなかなかできなかった為、直接いくつかの避難所を巡回しました。

巡回を行う中で予想外だったのが、外国人の少なさでした。原因としては、避難所の存在を知らなかったり、とりあえず避難所へ行ったものの避難所では様々な案内やルールなどの表示が日本語のみで行われていた為、普段生活していく上で日常会話には問題ない外国人にもなかなか目に触れることのない「給水」や「物資」など、災害時にしか使われない言葉が多くあり、状況を理解するには大変難しく、どうしたらいいのかわからず、多く

《特集》 熊本地震1年の振り返り・・・P1～P2

多文化共生セミナー・外国人防災訓練報告・・・P3

国際交流基金 地球市民賞受賞報告・・・P4

いわせてはいよ!

《熊本地区中国留学生学友会》・・・P5

### 目次

### Contents

学生ボランティア  
フォーラムの報告・・・P6

世界を知る  
～It know the world～・・・P7

ちょっと日本語/きふプロ  
平成29年度賛助会員・・・P8

の外国人が避難所においても言葉の壁に悩まされ、ストレスとなり、避難所を退去し、車中泊やグラウンドなど屋外へ避難されていたのです。避難所には避難所で生活する為の様々なルールが存在します。避難所で生活する上でルールを理解し守ることは日本人でもかなりストレスです。そんな中で宗教的制約や言語がまったく違う異国での生活環境など、ただでさえストレスがかかる外国人の人々が避難所生活を過ごすことは、日本人よりもはるかにストレスがかかったと考えられます。

### 多言語情報の提供

災害多言語支援センターでは、税金の減免、学校再開情報、仮設住宅、ごみ収集等多岐に渡る災害支援情報を日本語、英語、中国語、韓国語で発信しました。また当事業団HPの多言語情報を基に大阪大学のご協力を頂き、大阪大学熊本地震情報サイトで



タガログ語、インドネシア語、タイ語、アラビア語等の12言語による多言語情報も提供しました。

### 外国人被災者の為の生活相談会開催

避難所巡回や電話での聞き取りなどを通じて、今後どのような様にして生活基盤を立て直していくか、日本人でも難しい災害手続きや被災証明書の取り方など相談できる場が必要であると痛感し、5月1日(日)に第1回外国人被災者のための生活相談会を開催しました。

熊本県弁護士会、熊本県行政書士会、熊本市居住支援協議会、熊本市等のご協力を頂き、法律に関する相談、在留資格、住居支援、行政手続き・行政からの支援及びこころのケアについてブースを設け国際交流会館に於いて実施しました。熊本地震後2週間程度ということもあり、住居(アパート)が被災し住めなくなった、4月に入居したばかりだが、被災し住めなくなったが敷金・礼金等は返還されるのだろうか、等住居に関する相談が多くを占めました。また夜になると怖くて家に戻れない、子どもが怖がり家に戻れない等心理的な相談もありました。

その後、みこころ病院・国際協力NGO日本イスラエイドにご協力をいただき、心理カウンセラーによる、こころの相談を充実させ、5月8日(日)に第2回目、5月31日(火)には熊本大学で第3回目、6月12日(日)に熊本市国際交



流会館で第4回目を開催しました。

### この経験を活かして

今回の熊本地震を経験し、感じたことは平時からの外国人コミュニティや様々な専門分野を持つ方々とのネットワーク“つながり”を持つことの重要性でした。地震以降、在熊外国人の安否確認を実施した時、私達が外国人コミュニティとつながっていた事で円滑に安否確認ができ、その後外国人が避難している避難所情報の提供や、支援物資の提供等多大に協力してくれました。

熊本県弁護士会や熊本県行政書士会、熊本市居住支援協議会など様々な専門分野を持つ団体とも平時から相談などご協力を頂いており、今回の地震でも皆さんも被災者でありながら、外国人被災者向けの相談会等で快くご協力いただきました。1つの団体で成し得ることは限られていますが、ネットワークを活かし色々な専門分野からのご協力をいただいたことが大きな助けとなりました。

小学校や中学校に避難していた外国人被災者の中より、被災後、何をしてよいかわからず途方に暮れていた時、隣の部屋に住む住民が英語で、色々と情報を教えてくれ、一緒に避難しその後もずっと支えてくれて助かったという話を聞きました。今後はもっと積極的に隣人と交流していきたい、と彼らは話していました。隣人(地域)と“つながる”こと、これこそ日本人、外国人にかかわらず防災・減災のキーワードではないでしょうか?熊本に住む外国籍住民が地域に住む日本人とつながるきっかけを作る場として地域日本語教室が考えられます。生活する地域で、日本語をキーに、そこに生活する住民と“つながり”、ともに学ぶ場所であり、緊急時には外国籍住民の頼りになる相談相手を見つける場所です。地域住民にとっても外国籍住民の考え方や文化背景、生活習慣と日本との違いを学び、理解できるきっかけとなる場所です。古くからある隣保組の“つながり”の中に外国籍住民も入れる多文化共生社会の第1歩として、各区での「地域日本語教室」開催を目標に事業を進めてまいります。

熊本地震からの復興は今後長期に渡り続いていきます。在熊外国人の方々も私達と一緒に復興に向けて頑張っています。私達も在熊外国人の皆さんが少しでも早く普段の生活を取り戻せる様、様々な分野の専門家の皆様、外国人コミュニティ等のご協力をいただきながら支援活動を継続してまいります。



## 平成 28 年度 多文化共生セミナー

## 「やさしい日本語ってなんだ？」 事業報告

平成 29 年 2 月 25 日(土)午後 1 時 30 分より熊本市国際交流会館 6 階ホールに於いて平成 28 年度多文化共生セミナー「やさしい日本語ってなんだ？」を開催しました。みなさんは「やさしい日本語」という概念をご存じですか？普段私達が使っている日本語を外国人は理解できるでしょうか。「やさしい日本語」とは・簡易な語彙・表現・シンプルな文構造・漢字に振り仮名を振る・漢字に配慮する、等外国人に対してだけでなく、小さな子どもや高齢者、障害を持った人など、多様な人たちに配慮した易しくて、優しい日本語のことです。この「やさしい日本語」がなぜ今後地域社会で重要となっていくのか、なぜ外国人にとっても「やさしい日本語」が多言語情報に加え必要なのかを熊本地震での体験を踏まえ考える為、今回の多文化共生セミナーのテーマとして取り上げました。

事例発表として、当事業団の上田より熊本市国際交流会館での避難所運営、多言語情報発信及び避難所巡回を通して感じた多言語での相談、情報提供が重要で今後の外国人支援でも重要であるとの事例報告があり、その後(公財)横浜市国際交流協会藤井さんより、「やさしい日本語」を積極的に取り入れている横浜市国際交流協会の事例、そして熊本地震での多言語災害情報の発信や避難所巡回での経験を通じて、英語、中国語、韓国語以外の言語を母国語とする人達へは「やさしい日本語」での情報提供が重要かつ、有効だったとの話がありました。休憩をはさみ、後半は「どんな日本語がわかりやすい？」をテーマにネパール人コミュニティ代表でもあるハリ・プラサデウ・デブコタ熊本大学特任助教、武蔵ヶ丘地域日本語教室学習者代表の照喜名桂芬さんと熊本地震時に災害情報を「やさしい日本語」へリライトされた文化庁日本語教育スタートアッププログラムコーディネーター道本ゆう子さんにパネリストとしてご参加いただきました。

外国人(やさしい日本語の受け手)の立場で感じた「やさしい日本語」の意味・意義や「やさしい日本語」を出す側が必要とする「やさしい日本語」の基礎的な考え方を学べる大変有意義なセミナーでした。事業団では今後の多文化共生社会推進の手段の一つとして「やさしい日本語」を軸に地域住民と在熊外国人とを繋ぐ取り組みを積極的に推進していきたいと考えています。「やさしい日本語」のキーワードでもある、「お互いの歩み寄り」を実践するため、外国人だけが「やさしい日本語」を学ぶのではなく、日本人も積極的に「やさしい日本語」を学び、実践していくように心がけていきたいと思います。



## 「外国人向け防災訓練」 事業報告

平成 29 年 2 月 18 日(土)に外国人向け防災訓練を実施しました。昨年 4 月 14 日及び 16 日に発生した熊本地震をはじめ、災害の多い日本で生活する上では防災知識、防災意識の向上が欠かせません。特に熊本は台風・大雨等風水害が多く発生しやすい地域です。また熊本地震を経験した留学生、技能実習生達は 2 年から 3 年で大学課程や研修を終え、就職や帰国等で熊本を離れます。その後新たな留学生や技能実習生達が入ってきます。その多くは日本での災害時のノウハウや防災知識も経験もない人達です。新たに熊本で生活を始める留学生、技能実習生等の外国人を対象に防災訓練を開催しました。

今回の防災訓練では熊本地震での経験を基に避難所開設訓練を行いました。まず地震模擬体験として照明を落としたホール内に地震映像等を流し、このホールが避難所になった想定で開始。ボランティアと職員が協力して避難所開設準備を行いました。外国人参加者も避難所内表示の多言語翻訳等を手伝い、協力して準備を行いました。その後、炊き出し(避難食)体験として市内のパキスタン料理店タージよりハラール・カレーを参加全員で食べ、避難所内での生活の模擬体験を行いました。午後から内閣府が作成している地震時のシュミレーションクイズを行い、地震時の行動についての確認を行いました。後半は外国人参加の質問に、当事業団アドバイザーである羽賀長岡市国際交流センター長が実体験を基にアドバイスをを行いました。熊本地震後だった為、参加者も真剣に様々な質問をしていました。

例えば・・・

**質問 1**：地震がおきてすぐ、逃げようとしたらドアが開きませんでした。  
どうしたらよかったのでしょうか？

**質問 2**：地震が起きてすぐ広い場所へ行こうとして怪我をしました。  
地震直後はどうすればいいのでしょうか？



また、震度とマグニチュードの違いや、平時からどのような準備が必要かなどの質問があり、羽賀センター長が丁寧に答えていました。

災害時のノウハウや防災知識を学ぶ防災訓練は今後熊本で安全に生活していく上で大変重要な取組です。今後私達事業団では継続してこの外国人向け防災訓練を開催していきます。

質問 1 回答：外部の人に大きな声を出し、物をたたいたりして、助けを求める。

質問 2 回答：テーブルなど下に隠れ、揺れが収まるのを待つ、そして外に出るときはクッションなどで頭を守って外の広いところへ出る。  
(飲料水、携行食に加え、懐中電灯、ヘルメット、手袋、スリッパ等身を守る物を身近に置いておくことも大切です。)

# 地球市民賞受賞報告

この度、熊本市国際交流振興事業団は、ノルテ・ハボン（コスキン・エン・ハボン事務局）- 福島県川俣町、硫黄島地区会 - 鹿児島県三島村の2団体とともに、2016年度 国際交流基金より地球市民賞を受賞しました。受賞理由は、多くの市民ボランティアや多様な専門家と連携を図り、多様な文化の共生を推進していることです。特に、2016年の熊本地震で、言葉や文化の違いから日本人以上に不安と恐怖を抱えた外国人へ寄り添い、彼らそれぞれのニーズに合わせ、外国人コミュニティと連携・協力し、外国人住民も一体となった支援活動を行なったことを高くご評価いただきました。

授賞式は、2月28日（水）、キャピタル東急ホテル東京で、高円宮妃殿下、園浦外務副大臣のご臨席をいただき盛大に開催されました。当事業団からは理事長の吉丸良治と理事の小野友道が出席し、国際交流基金の安藤理事長より賞状と賞金200万円の目録が贈呈されました。受賞団体スピーチでは、吉丸理事長が受賞の喜びと責任を次のとおり発表しました。



「この度は、地球市民賞という輝かしき賞をいただき、大変光栄に存じます。誠にありがとうございました。予想だにしない、この大賞をいただき、国際交流基金様、審査委員の皆様へ心よりお礼申し上げます。

そして、この受賞のきっかけは、熊本地震での外国人被災者支援活動です。この活動を支え、共に活動していただいた協力団体の皆さんや数え切れない多くのボランティアの皆さんのご協力で推進できました。また、世界各国から励ましのメッセージを届けていただいた皆様に、感謝の気持ちで一杯です。特に、私どもをご推薦いただいたのが、はるばるアフリカエジプトの国際交流基金のカイロ日本文化センター様とお聞きし、驚きと同時に世界とのつながりの素晴らしさに感謝いたします。

熊本地震は震度7を2回と余震4,000回を越す未曾有の地震でした。特に数日は、恐怖と不安の中を過ごす日々が続きました。このような中で、在住外国人や海外からの観光者の方々も同じように被災さ

れ、災害情報のほとんどが日本語であったことや、文化、習慣の違い、また母国で地震を経験したことがないことなどから、日本人以上に恐怖と不安を持たれたことと思います。

当事業団では、直ちに国際交流会館の1、2階を避難所として受け入れを始めました。避難者は、日々増え、最高147人に達したようです。

民間ボランティア団体にご協力をいただき、暖かい炊き出しを毎日行うこともできました。イスラム教の避難者へはハラール食の提供も行っていました。災害支援情報を多言語化し、各避難所へ届けたり、ホームページに掲載し世界へ発信してまいりました。また、外国人の安否確認のための各避難所巡回は50箇所を越えました。

この支援活動の中、多くの外国人被災者の方々から、「自分たちより深刻な被害状況にある日本人が助けてくれたことは驚きであり感謝しきれない。」とか「震災後、近所の人たちが、“大丈夫”“元気ね”と声をかけてくれることが嬉しい。」といった声も聞きました。

一方、外国人被災者の方々も、高齢者家庭へ水のペットボトルなどを配り歩いたり、炊き出しで母国料理を振る舞うなどの協力もあって、避難所が温かい空気に包まれることもありました。

当事業団では、今回の地球市民賞をいただいたことを契機に、今後、日頃の国際交流の輪を広げながら、国際交流会館を拠点として、地域の国際化を推進していく役割を、さらに高めていけるよう努力してまいります。」

熊本地震での外国人支援活動では、被災地内での市民ボランティアによる炊き出し支援等の協力がありました。全国から災害多言語支援センターの活動に集まってくれた顔の見えるつながりに感謝です。そして、全国や海外からの励ましのメッセージには本当に勇気づけられました。この度の地球市民賞の受賞の喜びを、多くの皆様と分かち合いたいと存じます。改めて、心よりお礼申し上げます。

地球市民賞とは：国際文化交流活動を通じて、日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、お互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える団体を支援する賞です。対象分野「文化・芸術による地域づくりの推進」「多様な文化の共生の推進」「市民連携・国際相互理解の推進」の3分野。

主催：国際交流基金 ホームページ：  
<http://www.jpof.go.jp/>

# 熊本地区中国学友会 活動紹介



九州地区中国留学人員友好聯誼会（Association of Chinese Students and Scholars in Kyushu、略称：九州地区中国学友会。）は、1992年に創立された中国留学生組織です。「団結・愛国・奉仕・友好・貢献」を前提とし活動しています。2013年10月に中華人民共和国駐福岡総領事館により、「平穏無事な留学生活を送り、九州で夢をかなえるように」という主旨が提案され、現在、九州沖縄山口地域において20支部が設立されています。九州地域の約13,500名の中国留学生の願いを反映し、現実的な問題を解決し、合法的権利を守り、豊かな留学生活を送ってもらう為に設立されたボランティア団体です。相互理解と友好交流の架け橋として、地元の活動や様々なイベントに参加し、積極的により良い中日関係を築いています。

それではこれから、熊本地区中国学友会の活動について紹介したいと思います。

## 《主な活動》

### ●熊本地区中国留学生春節会

熊本地区中国学友会と熊本県日中友好協会が共催し活動しています。毎年、熊本地区における中国人留学生、日中友好団体、華僑華人などの方々に参加していただき、盛大に開催している新年会です。  
\*春節（旧暦のお正月で中華圏国家（中国・台湾・シンガポールなど）では盛大にお祝いをします。

### ●熊本市日中友好花見会

こちら熊本県日中友好協会と熊本地区中国学友会が共催する活動です。桜が咲いている公園にて、中国人留学生と日本人友好人員が集まって花見を楽しみます。



<花見会の様子>

### ●『九州と中国』写真展

6ヶ月間かけて、全九州の素晴らしい写真を集めました。「友好」、「感動」、「独立」、「恋」などの感情を編んでいた活動です。

### ●熊本地区中国人留学生歓迎会

毎年4月と10月に熊本へ来たばかりの留学生のために「交通安全」、「災害避難」などの講演を行っています。さらに、新入生に中国学友会を紹介し、入会案内等の説明会を行っています。



<新入生歓迎会の様子>

### ●中国人留学生支援会

熊本県日中友好協会と熊本地区中国学友会が共催する活動です。新入生は毎年回収した家具家電を無料でもらえ、自宅まで送ってもらえます。

### ●熊本地震での支援活動

2016年4月の熊本地震の際、熊本地区中国学友会は帰国したり、一時避難する留学生、それも国籍が違う学生



一人ひとりの「困ったこと」に耳を傾け、できる手助け・支援を大学や総領事館

<避難所のお婆さんに肉まんを配る様子>

などに要請、提供しました。ノイローゼ気味の学生に対しては関係者全員の会合をセッティングし、入院可能な病院を探したり、両親が来日できよう協力し実現させてきました。また、領事館からもらった支援物資は児童養護施設「菊水学園」の子供達に届けたりしました。その活躍は大使館でも



<大使が留学生を訪問されました>

高く評価され、母国の国营放送でも紹介されました。

## 第5回全国学生ボランティアフォーラム 報告

2017年3月3日から2泊3日で東京代々木のオリンピックセンターで第5回全国学生ボランティアフォーラムが開催され（主催：国立青少年教育振興機構）、全国から700名近くの大学生・高校生が集い、「ボランティア」をキーワードに交流、学び合い、多くのつながりが育まれた。国際、環境、福祉、教育、地域づくり、平和・人権、災害の各分野の、ボランティア活動をつ



<オープニングセッションの様子>

なげ、その社会性や活動価値を確立していこうという運動である。熊本からは、熊本大学、県立大学、学園大学、ルーテル学院大学から学生の参加があり、分科会活動では県立大学の戸田千晴さんと千葉大学の田代智也くん（熊本出身）がコーディネーターとなり熊本地震を事例に、災害時の学生ボランティアの可能性を討論した。当事業団は、アクションマーケットに出展し、「国際ボランティアワークキャンプ」「グローバルワークキャンプ」の活動紹介、広報を行なった。それぞれ、高校生（ボラキャン）と大学生（グロキャン）を対象に、自ら課題をみつけ、ワークキャンプを企画、運営していくところが特徴である。

本フォーラムは、3日間のプログラムの中に、熊本での2つのワークキャンプにつないでいきたい多くの学びがあった。

クロージングシンポジウムでは、初回ボラキャンから指導いただいている昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンターの興梠寛氏がコーディネーターとなり、「おいでよ！カントリーサイドへ～“いなか”は未来への宝石箱～」をテーマに、3人の宝探しの“達人”（小松圭子氏～有限会



<クロージングシンポジウムの様子>

社はたやま夢楽代表取締役、平賀研也氏～長野県立長野図書館長、渡部清花氏～東京大学大学院総合文化研究科修士1年・WEL gee 共同代表）が、学生の未来を育むコミュニティの姿について、熱く語り合った。現代社会の価値観の上に敷かれたレールを走ることを強られる学生たちは、ストレスを感じ、人と異なることに恐怖すら覚えることがある。貧富の格差の増大、子供の貧困、限界集落を作り出していく。世界に目を向けると紛争、難民… 多くの問題が山積している。こんな問題社会で暮らす学生たちが、明るい未来に希望を持ち、時代を変えていくには、人とのつながり～やさしいコミュニティが大事である。そして、その大事なものは、時代が切り捨てていこうとしている辺境や社会の片隅に置かれた人たち側にあるのではなからうか。興梠氏がアメリカ放浪時代に差別を受けた時、助けてくれたのは同じくマイノリティの人たちだった、と言う。祖国を追われた難民こそが真の地球市民であり、彼らの声なき声を地球の表舞台に出していくために活動している人がいる。田舎には、今も変わらない風景があり、誰の心にも懐かしさを伝える何かがある。時代が経っても変わらないもの、“なつかしい未来”が合言葉である。私たちは、見失いがちなものしっかりと目を向け、社会課題へのアクションを起こさねばならない。

2017年、ボラキャン、グロキャンに参加してくれる学生諸君と一緒に“Make A difference!”の風をおこしたい。



<分科会活動の様子>



<全国学生ボランティア交流見本市の様子>

\*第12回ボランティアワークキャンプ in ASO (高校生)  
開催予定：2017年8月8日～10日  
\*第5回グローバルワークキャンプ in ASO (大学生)  
開催予定：2017年8月15日～18日  
(会場は、共に、国立阿蘇青少年交流の家)



## 世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

### 「海外を知る」ということ

青年海外協力隊OG 田代 尚千恵（なちえ）さん(菊池市出身)  
(2014年9月～2016年9月 ベトナム派遣 職種：言語聴覚士)

私が青年海外協力隊に興味を持ったきっかけは、長崎にある病院に3年ほど勤めたころ、「新しい世界」に憧れるようになり、ネットで見つけたのが協力隊でした。その病院のリハビリ職種には隊員経験者がいたこともあり、「私もやってみようかな」、「自分の経験と資格を海外で生かせるチャンス」と胸躍らせ飛び込みました。

私の職種である言語聴覚士は、リハビリ専門職の一つです。病気や交通事故、発達上の問題などで話す、聴く、食べる、飲み込むことに問題を抱えた方に対しリハビリを行います。日本では1999年に国家資格化され、現在は約27,000人の言語聴覚士が病院などの医療機関を中心に活躍しています。

私はベトナム最大の経済都市ホーチミン市の「チョーライ病院」で2年間活動をしていました。この病院は約40年前に日本の援助で建てられ、外来患者が1日3500人、医療教育の役割も担う国南部の中心的国立総合病院です。先輩隊員たちも理学療法や作業療法の支援を続けてきましたが、言語聴覚士の派遣は私が初めてでした。日本でも比較的新しい分野だけに、任地でも知名度や仕事内容の理解度は低く、活動では様々な困難がありました。しかし、陽気で優しい同僚たちに支えられ、困難を乗り越え、2年間の隊員生活を過ごすことができました。



そんなベトナム生活における体験で、私が皆さんに一番伝えたいことは、「海外を知る」ということは、自身の変化に繋がる！」ということなのです。

少し汚い話になりますが、ベトナムの人はトイレに行った後に手を洗わない人が多く、女性の方でも

平気で人前で鼻くそをほじることがあります。私はそのような行動に驚くとともに、マナーの違いをストレスに感じることもありましたが、しかしその反面、ベトナムには私にとって嬉しい文化がたくさんありました。その中の一つが“ごめんねコーヒー”文化です。実は、ベトナムはブラジルに次いで世界2位のコーヒー輸出国。道の至る所にカフェがあり、人々



が思い思いにコーヒーを楽しむ。日本のお茶と同様、生活にとっても密着した飲み物なのです。

さて、話は戻りますが、この“ごめんねコーヒー”文化とは、私が勝手に名付けた文化ですが、同僚や友人と言い合いをした時や相手に迷惑をかけた時、自分が悪かったなぁと思うと、コーヒーを添えて謝る文化がありました。相手の好きなコーヒー屋さんのコーヒーだったり、ミルクや砂糖の量などを相手の好みに調整したコーヒーを添えて謝る。相手のことを知っていなければ出来ないことですし、私はその場面を見る度に相手のことを思う気持ちが表現されているように感じました。

このような文化・マナーの違いに触れ、自身のものの見方・考え方が変わりました。そのため「海外を知る」ということは、自身の変化に繋がる！」ということも、今回テーマとして書かせて頂きました。

今後どのように世界と関わっていくか。帰国して数ヶ月、日本文化に触れながら日々考えています。



ちょっと Japanese Tip  
日本語

さくら

NPO法人 日本語サポートあさ  
代表 小川 ひろみ さん

春といえば、桜。咲いている時はもちろん、吹雪のように風に舞う桜もいいものです。さて、日本語学習者に桜の散る様子を聞くと簡単ではないようです。「のらのら? からから?」日本語母語話者の私たちに想像できないような音の表現が返ってきます。つまり、カ行(か・き・く・け・こ)は金属的な堅い音、ナ行(な・に・ぬ・ね・の)は引き込まれるような粘りの音、ハ行(は・ひ・ふ・へ・ほ)は空中に漂うような軽い音、等。私たちは無意識のルールに従って日本語の音を使い分けていることに気づきます。それでこの無意識のルールに従えば「はらはら ひらひら」舞い散る桜はハ行の空中に漂うような軽やかな花卉が楽しく散っていく様子をイメージできます。

桜の散るのを眺めながらちょっと日本語のいろいろな音のイメージを思い浮かべてみませんか。

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが繰るKIFのアクティビティ インターネットではもっとたくさん紹介しています。  
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>

こんにちは!  
県立大学インターン生の福島と杉田です。

今回の韓国文化サロンは韓国においての多文化共生についてのお話でした。結婚や仕事のために韓国に移住した人が増えて、多文化共生政策ができ、様々なサポートが行われているようです。問題として、まわりの偏見やサポート充実による韓国国民からの逆差別などの問題もあって多文化共生に対する意識が少し低いということを知りました。そのほかには、国名を韓国風に発音する練習もしました。日本語での「カナダ」は韓国語では「ケナダ」と言ったり、「中国」は「チュングッ」と言うそうです。日本語と似ているようでとても興味深かったです。



(韓国文化サロンの様子)

☆平成29年度賛助会員募集! ☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

- ①個人会員 一口 2,000 円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000 円/年(一口以上)

平成 30 年 3 月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>  
一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局  
〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館  
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783  
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

継続・新規ご加入 ありがとうございます。(平成 29 年 3 月 31 日までにご加入いただいた皆様) 【個人】50 音順(敬称略)

- ・安藤 宗憲
- ・清水ミノリ



- 阿蘇くまもと空港より 車で 45 分
  - 熊本交通センターより 徒歩 3 分
  - 熊本市電停花畑町より 徒歩 3 分
- from Aso-Kumamoto Airport-  
45minutes by car  
from Kotsu Center-3minutes walk  
from "Hanabata-cho"  
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター  
開館時間 午前 9 時～午後 8 時  
多文化共生オフィス TEL:096-359-4995(直通)  
休館日 第 2・第 4 月曜日、年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)  
Civic Support Center for International Exchange and Cooperation  
Kumamoto City International Center  
Service Hours 9:00a.m. -8:00p.m.  
Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)  
Closed: 2<sup>nd</sup> and 4<sup>th</sup> Mondays of each month, Dec. 29<sup>th</sup>-Jan. 3<sup>rd</sup>

★平成 27 年 10 月 1 日より交通センター付近は MICE 建設工事中です。シンボルロードが臨時バスターミナルとなっています。